国語科学習指導案

日　時　　令和３年11月２日（火）
学　級　　北上市立飯豊中学校
　　１年Ｂ組27名（男子11名、女子16名）
授業者　　教諭　上林 巧実

１　**単元名**　いにしえの心にふれる　―古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える―
（光村図書　国語１　今に生きる言葉　p. 170 ～ p. 174）

２　**学習材名**　今に生きる言葉

３　**単元（学習材）について**

（１）学習材の位置付けと扱う教材について

本単元は学習指導要領の内容１知識及び技能（３）我が国の言語文化に関する事項にあたり、中学校の古典分野の学習の導入として、日本の言語文化の基盤となった漢文について理解を深めさせることがねらいとされている。いろは歌、蓬莱の玉の枝という日本の古典についての学習から継続する漢文の学習にあたるため、現代と古典のつながりだけでなく、日本と中国との言語文化におけるつながりについても考えを巡らせることができる単元であると考える。

故事成語『矛盾』を学習材として、故事成語の成り立ちや意味、用法などを学んだ上で、故事成語の故事を現代の出来事に置き換え、生徒自身の日常生活の体験談と結び付けて考えて読み合う言語活動を位置付けている。この言語活動を通して、現代に生きている古典について目を向け、自分のものの見方や考え方を広くさせることをねらいとしている。

本学習材には、中国の古典に由来し現在も日常生活において使われる故事成語が挙げられている。身近に存在し現代に生きている故事成語を主として扱うことで、生徒は現代と古典の世界を比べるだけでなく、我々が普段何気なく使っている日本語が中国の言語文化に由来することを知り、より一層言葉に対する見方・考え方を深めることができると考える。

（２）単元（学習材）と生徒との関わり

生徒のレディネスを把握するための事前調査は、以下のような結果となった。

小学校の古典の学習の印象	おもしろかった　１３人 何も思わない　６人	おもしろくなかった　０人 覚えていない　７人
故事成語とは何か説明することができる。	できる　２人	できない　２４人
故事成語を普段の生活で使ったことがある。	ある　４人	ない　２２人

生徒は現段階では古典の学習に対して苦手意識を持っておらず、むしろ学級の半数が前向きな印象を持っていることが分かる。一方、本単元で扱う故事成語に関する調査では、学級のほとんどの生徒が故事成語とは何か説明ができない、故事成語を日常生活で使ったことがないという結果となった。しかし、本校では体育祭のスローガンが「臥薪嘗胆」であったり、一学年の校外学習では「百聞は一見にしかず」という言葉でまとめを書いたりしている生徒がいたりと、普段故事成語に触れる機会は多々あるはずである。したがって本単元では、生徒の日常生活上にある故事成語について目を向けさせ、故事成語の普遍性に気付かせることを通して、言葉に関するものの見方や考え方を深めさせる単元にしたい。

（3）単元（学習材）と本校研究主題とのかかわり

本校では、ユニバーサルデザイン（以下、UD）の視点を取り入れた授業実践を行うことによって、主体的に学習に取り組む生徒を育てることを主題として研究を進めている。焦点化、視覚化、共有化を重点とする全14の視点を取り入れて「わかる・できる」実感をもてる授業を継続して実践することで、粘り強く、そして自ら調整しながら学習を進めていく生徒を育成することを目指している。

国語科では「主体的に学習に取り組む生徒」について、以下のようにとらえている。知識・技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとし、その取り組み過程で自らの学習を調整しようとする中で、「言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている」生徒である。

現行学習指導要領では、国語科の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」ことである。今後子どもたちは、Society5.0時代を目前に予測困難な世の中を生きていくことが推測される。その中では、単に知識を持ち合わせているだけではなく、社会で起きている様々な諸事象に対してその解決を目指していく必要があり、国語科の果たす役割は大きい。課題を解決する中で言葉を用いて他者と共同し、異なる他者の考え方に触れることを通して、言葉のもつ価値に気付かせたい。そのことが「主体的に学習に取り組む生徒」を育てることにつながると考えている。

本単元は中国の古典に由来する故事成語についての学習である。故事成語は中国の古典に由来する一方で、その教訓的な意味合いを持つからこそ今もなお日常生活の中で用いられている。日本の言語文化が中国に由来するものである以上、故事成語について目を向けることは自分たちの言語文化を改めて見つめ直すきっかけになるだろう。現代の言葉と古典で使われている言葉、日本と中国など、故事成語の学習を通して言葉が様々受け継がれてきたことを知り、言葉による見方・考え方をより一層深めさせる学習にしたい。そのことが国語科における主体的に学習に取り組む生徒を育てることにつながると考える。

4　単元の目標と評価規準

（1）単元の目標

知識・技能	音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。（3）ア
思考力・判断力・表現力等	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。C（1）オ
学びに向かう力、人間性等	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合うことができるようにする。

（2）単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。（3）ア	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。「C　読むこと」（1）オ	積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。

5　単元の指導と評価の計画【単元構想】

単元全体の追究課題	故事成語を生かして体験文を書こう

評定に用いる評価（●）、学習改善に用いる評価（○）

	学習課題とねらい	評価の観点 知	思	態	評価規準と方法
1	単元導入、漢文の読み方 「昔の日本人は漢文をどのようにして読んだのだろう」 ・私たちの生活に何気なく使われている故事成語に目を向けることから、日本語の由来となった漢文について理解し、故事成語を用いて体験文を書く単元であることを把握する。 ・『矛盾』の書き下し文を音読し、漢文独特のリズムや言い回しに親しむ。 ・訓読について知り、書き下しの仕方について理解する。	●			訓読と書き下しの仕方について理解し、正しく漢文を読むことができている。 【小問題】
2	いろいろな故事成語 「故事成語の由来」 ・『矛盾』以外での故事成語の由来や意味について調べて理解する。 ・故事成語の成立の由来が中国の故事にあることを知り、今に生きる故事成語を通してものの見方や考え方を広げる。 ・故事成語を故事成語の成立や故事成語の持つ意味などの理解を深める。		●		様々な故事成語に触れ、故事と故事成語の意味を結び付けて考え、故事成語への理解を深めている。 【学習シート】
3 本時	いろいろな故事成語 「故事成語を自分の生活に活かそう」 ・故事成語の意味を正しく理解した上で文章中において適切に表現することができる。 ・故事成語と自身の日常生活とを結びつけて体験文を書くことを通して故事成語に親しみ、ものの見方や考え方を広げる。			●	故事成語の由来や意味を正しく理解したうえで体験文を書き、故事成語を自分の生活に活かそうとしている。 【学習シート】

6　本時の指導

（1）ねらい

・故事成語の意味を正しく理解した上で文章中において適切に表現することができる。
・故事成語と自身の日常生活とを結びつけて体験文を書くことを通して、故事成語に親しみ、ものの見方や考え方を広げる。

（2）評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
故事成語の意味を正しく理解し、自分の生活と結びつけて体験談を書くことができている。 【学習シート】	机間指導を通して、つまずいている点について考える視点を与えたり、グループでの話し合い活動への参加に積極的に促したりするなどして、本時の学習に対しての意識付けを図る。

（3）指導構想

本時は３時間単元の第３時間目にあたる。第１時間目では故事成語『矛盾』を用い漢文の訓読・書き下しについて学習した。そして生徒には本単元では今に生きる故事成語に目を向け、故事成語を用いて体験談を書くことを伝え、学習の見通しを持たせている。本時では単元のまとめの学習として、これまでの学習で目を向けてきた様々な故事成語を自分の体験に重ねて体験談を書く活動を行う。実際に故事成語を用いて体験談を書くことで中国の故事と生徒自身の生活との共通性に気が付き、故事成語への興味・関心、理解を深めるとともに、ものの見方や考え方を広げることをねらいとしている。

導入部では、これまでの学習を振り返り、「故事成語が中国の故事に由来していること」や「故事成語の意味が現代にも十分通じることから今でも日常生活で用いられていること」などに触れ、「故事成語を自分の体験に重ねよう」という学習課題を設定する【UD　焦点化】。

展開部では、生徒が自身の生活と故事成語を重ね合わせて体験談を書き、個人→少人数グループ→全体の順で共有化【UD　共有化】を図りながら学習を展開する。個人作業の段階では、体験談の締めの言葉を「これぞまさに現代の〇〇（故事成語）である。」とすることを示し、故事を現代の物語（生徒自身の体験談）に重ねて置き換えさせる。実際に故事成語を自身の体験に重ねることで、古典と現代、中国と日本など、時代や場所を越えてきた故事成語に目を向け、その普遍性に触れてものの見方や考え方を広げさせたい。少人数グループの活動段階では、お互いに評価をしながら交流を行い、故事成語のもつ本来の意味を正しく捉えられているかを重点として聞き合わせる。全体交流の段階では、少人数グループでの交流で最も良かった体験談を一つ選ばせ発表させる。これらすべての活動はホワイトボードに記して提示し、活動の見通しを視覚化し、生徒と共有する【UD　視覚化】。

終末部では、本時の学習を振り返り、故事成語について理解を深めたことや考えたことをまとめとして書かせ、今後の生徒の生活に活きるものとして学びを確かなものにさせたい。

（4）展開

本時：3/3時間

段階	学習内容と学習活動	指導上の留意点　等	UDの視点 ◆評価
導入 5分	1　前時の復習 2　身のまわりの故事成語 3　学習課題の設定 **故事成語を自分の体験に重ねよう**	・「故事成語が中国の故事に由来していること」「故事成語が現代でも十分通じることから私たちの日常生活で用いられていること」 ・生活しているなかで耳にしたことのある故事成語を挙げさせる。（ペア→全体） ・本時の学習の見通しをホワイトボードに示す。	UD≪スパイラル化≫ 既習事項の確認 UD≪視覚化≫ 本時の学習の流れを視覚的に提示 UD≪焦点化≫ 本時の学習の意識づけ
展開 40分	4　故事成語を決める 5　故事成語の意味に適した体験談を想起する 6　故事成語を用いて体験談を書く 7　交流	・体験文に用いる故事成語を自由に決めさせる。 ・決められない生徒に対しては以下に示す故事成語を提示し、一つ選ばせる。 **・臥薪嘗胆　・蛇足** **・五十歩百歩　・百聞は一見に如かず** ・情報端末機器を用いて故事成語の意味を調べ正しく理解した上で、故事と自分の体験を重ねて考えさせる。 ・「矛盾」を用いて教師が体験文のモデリングを示す。 ・体験談の締めの言葉は以下のように指定する。 **「これぞまさに現代の〇〇（故事成語）である。」** ・生徒の体験談と故事を重ねて考えさせるように意識させ、200字程度にまとめさせる。 ・少人数グループ→全体（班代表）で交流させる。【交流の観点】を提示し、それにしたがって班の中で発表者を決めさせる。 **・正しい故事成語の意味で書かれているか。** **・話は分かりやすくまとまっているか。**	◆故事成語の由来や意味を正しく理解したうえで体験文を書き、故事成語を自分の生活に活かそうとしている。 ［主体的］ UD≪共有化≫ 他者の異なる意見の交流
終末 5分	8　学習の振り返り 9　全体交流	・本時の課題に対する学習の振り返りを行う。 ・書いたことを数名の生徒に発表させる。	

【　黒板使用計画　】

十一月二日（火）　　日直　（　　）

一日の学級目標

今に生きる言葉

単元全体の追究課題
故事成語を用いて
体験文を書こう

本時の流れ
1 前時の復習
2 課題設定
3 体験文を書く
4 交流

学習課題　故事成語を自分の体験に重ねよう。

○　これを目指そう！

矛盾　例示　～　矛盾を用いた体験文　～

➡　「これぞまさに現代の〇〇である。」

○　臥薪嘗胆　五十歩百歩

蛇足　百聞は一見に如かず

○　交流